

新年のご挨拶

— 国を支えて、国を頼らず —

院長 沼尾 利 郎

あけましておめでとうございます。新春を迎え皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年もよろしくお願い申し上げます。



さて、昨年は当院にとって大きな飛躍の年でした。5月には念願の看護基準10対1を取得して手厚い看護体制となり、医療の質の向上とともに経営改善にも大きく貢献しました。また病棟建て替えの計画も立ち上がり、6月には新病棟の基本設計等の検討も開始されましたが、これは病棟耐震化に関連した補正予算によるものが主体であり、計画の見直しも含めてその多くは未定です。

一方、4月と11月には政府の「事業仕分け」があり、厚労省が所管する独立行政法人（独法）の1つとして国立病院機構（NH0）もその対象となりました。平成16年に独法化したNH0は2年目には黒字に転換し、平成20年度には約300億円の利益を上げて「独法の優等生」と言われてきましたが、事業仕分けの結論は「運営交付金の縮減やブロック事務所の合理化等」というものでした。我々が担っている医療の内容は何も議論されずにお金と運営面の追求のみに終始した仕分けでしたが、NH0の国庫依存率はわずか1.6%（平成21年度）と既に国依存から脱却しており、地方交付税により収益の24%に当たる補てんを受けている他の公立病院（自治体病院など）と大きく違っている事実が仕分け人に理解されなかったのは大変残念でした。

国から負託されている使命を十分に果たすためには、NH0はどのような組織であるべきなのでしょう。福沢諭吉の「独立自尊」の精神（他に頼ることなく、自の尊厳を自の力で守ること）のように、私たちにとって「国と地域を支えて、国や地域に頼らず」という覚悟が今ほど必要な時代はないと思います。

たとえ政治が変わろうとも、私たちが為すべきことは変わりません。当院が目指すのは「安全で質の高い医療を患者さんの目線に立って提供すること」であり、「患者さんや地域から信頼され職員にとっても働きがいのある病院」の実現です。地域の医療機関や介護・福祉施設との連携をより一層進めながら、地域医療（がん・糖尿病・救急医療など）と政策医療（重症心身障害者医療・神経難病・結核など）に貢献すべく努力いたしますので、皆様のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。